国際医療福祉大学　2012年8月25日発行　学校法人国際医療福祉大学　☎0287-24-3000
http://www.iuhw.ac.jp/

「共に生きる社会」の実現をめざして

# IUHW

vol.90
August
2012

International University of Health and Welfare

## 第16回 大田原キャンパス運動会

## 平成24年度 学部入学式 大学院入学式

新入生概要／北島政樹学長式辞

特集1

16th 2012 May 26
大田原キャンパス

# 運動会

5月26日（土）、大田原キャンパス運動会が開催された。
前日の雨から一転。日焼けするほどの陽射しが照りつけ、
グラウンドコンディションも最高となった。
昨年は雨のため体育館で応援合戦だけを実施。
2年生にとっては今年が最初で最後だったこともあり、
競技は例年以上の活気を感じる盛り上がりとなった。

今年の実行委員長は穴澤 眞さん
（作業療法学科2年）

緑のTシャツは実行委員

●撮影協力は写真部

## 言語聴覚学科は沖縄の伝統芸能「エイサー」に初挑戦

栃木エイサーシンカ琉和の吉村さんと伊藤さんにお世話になりました

## トリは学科対抗リレー

総合優勝は理学療法学科

借り物競争とは思えないほどのデッドヒート

このふたり、
実はものすごく
頑張ったんです

特集2

# 平成二四年度 学部入学式並びに大学院入学式

**国際医療福祉大学　大田原キャンパス**
**期日　平成二四年四月三日（火）**
**会場　那須アスリーナ一階**

●コーラス部による校歌斉唱。新入生は初めて聞く母校の校歌です

**【式次第】**

**校歌斉唱**

**式辞**
・北島政樹学長
・金澤一郎大学院院長
・高木邦格理事長

**来賓祝辞**
・大田原市長　津久井富雄様
・栃木県保健福祉部　名越究様

**新入生誓いのことば**
・理学療法学科　森岡奏子
・医療福祉経営専攻　王磊磊

**学部長・学科長紹介**

平成二四年度 新入生概要

■学部　1452名

【大田原キャンパス】
**保健医療学部　615名**
・看護学科　126名
・理学療法学科　103名
・作業療法学科　103名
・言語聴覚学科　106名
・視機能療法学科　51名
・放射線・情報科学科　126名
**医療福祉学部　185名**
・医療福祉・マネジメント学科　185名
**薬学部　197名**
・薬学科　197名

【小田原キャンパス】
**小田原保健医療学部　162名**
・看護学科　60名
・理学療法学科　51名
・作業療法学科　51名

【福岡天神キャンパス】
**福岡看護学部名　102名**
・看護学科　102名

【大川キャンパス】
**福岡リハビリテーション学部　191名**
・理学療法学科　100名
・作業療法学科　46名
・言語聴覚学科　45名

■大学院　270名

**医療福祉学研究科　263名**
・修士課程　保健医療学専攻　125名
・修士課程　医療福祉経営専攻　45名
・修士課程　臨床心理学専攻　25名
・博士課程　保健医療学専攻　68名
**薬科学研究科　1名**
・修士課程　生命薬科学専攻　1名
**薬学研究科　6名**
・博士課程　医療・生命薬学専攻　6名

## 【学長式辞（要旨）】 北島政樹学長

桜の開花宣言を待ち焦がれる今日この頃ですが、余震なお厳しく、那須連山と八溝山系の頂には今もなお降雪が認められております。一方、社会の情勢は厳しい状況でありますが、本日入学された皆様は日本を元気にしようと強い心意気をもって本日の入学式に臨まれたことと思います。心からお祝いするとともに、今日まで物心両面にわたり支えてこられたご両親、ご家族、関係者の皆様にも、教職員一同お祝いと敬意を表します。

歴史と伝統のある私立大学は、慶應義塾大学の福沢諭吉、早稲田大学の大隈重信、同志社大学の新島譲など、創立者が建学の精神を掲げ、学生一人ひとりがそれを心に刻み伝統を創り上げていくことが、国公立大学と大きく異なる点であります。本学のルーツをたどりますと、今から約一〇〇年前の一九一〇年に現理事長高木邦格先生の祖父・高木吉彦先生が大川市に高木眼科医院を開業されたことであります。一〇〇年前というのは、細菌学者コッホや看護学の祖といわれたナイチンゲールなどが活躍した年代です。その後、一九六二年にお父様の高木維彦先生が放射線科と胃腸科を加えて高木外科医院を開院されました。福岡県大木町のご自宅には、今もなお、先生が最も大切にされていたという一枚の額を掲げておられると伺いました。

●式辞を述べる北島政樹学長

**「生命之尊厳、生命之平等」**と書かれており、これが病院の理念として脈々と継承され、本学の建学の理念、**「共に生きる社会」**に相通じるものとなっていると言っても過言ではありません。

こうした歴史と伝統を基盤として、一九九五年にここ大田原の地に、高木理事長の理念でもあります医療福祉専門職の養成とその地位向上を目指し、日本初の医療福祉の総合大学、国際医療福祉大学が開学されました。これが本学の光輝ある伝統と歴史の始まりであります。

医療福祉の現場は少子高齢化社会の中で大きな変革を迎えることが予想されますが、本学の教育における「チーム医療」の推進は技能と信頼の呼応であり、まさしく社会の多様性に迅速に対応できる人材の育成をめざすものでもあり、医療福祉の先導者を育成することにつながるわけであります。新入生の皆様は教員と共に社会的ニーズである医療形態「チーム医療」の実現を目指すために、本日の入学を起点として、本学の建学の精神を心の奥深くに留めていただきたいと思います。また他人から注がれる優しい思いに気づいた時は、安心感や喜びと共に「自分も周囲の人に対してそのようにありたい」という思いも引き出されてくるのです。どんな立場であっても自分で考え、自分で責任をもって行動できる「独立して生きる力」と他人の心の痛みを感じ、利害得失を超えて新しい協力関係を作り出すことのできる「協力して生きる力」の両方を兼ね備えた人間になることこそ、医療福祉の先導者の真の精神と思われます。

母校というのは、心からこの学校で学んで良かったという学び舎であり、楽しみが溢れ、輝きに満ちた場所でなければなりません。サークルやボランティアにも積極的に参加され、学業以外に真に打ち込めることを発見することが必要です。震災時における延べ二〇〇〇人を超える君たちの先輩のボランティア活動は見事であり、高い評価を受けました。私は彼らを誇りに思うと同時に、彼らの勇気と決断、そして行動力に敬意を表します。新入生の皆様は持ち続けてこられた夢と希望をもって、新しい一歩を踏み出していただきたいと思います。

●新入生誓いのことばを述べる王磊磊さん

**その他キャンパス・グループ施設**

■入学式
四月四日　柳川リハビリテーション学院
四月四日　塩谷看護専門学校
四月四日　小田原保健医療学部
　　大学院小田原キャンパス
四月五日　福岡国際医療福祉学院
四月六日　福岡看護学部
　　福岡リハビリテーション学部
四月七日　大学院大川キャンパス
　　大学院東京青山キャンパス
四月九日　大川看護福祉専門学校
　　（新入生歓迎会）

■辞令交付式
四月一日　東京・千葉・熱海・小田原地区
四月二日　栃木地区
四月五日　大川・福岡地区



IUHW International University of Health and Welfare
vol.90 August 2012

CONTENTS

2.3 特集1 第16回運動会 大田原キャンパス

4.5 特集2 平成24年度 学部入学式並びに大学院入学式 大田原キャンパス

キャンパスレポート
6 第23回 小田原キャンパス
7 第13回 福岡天神キャンパス
8 第27回 大川キャンパス
9 第5回 塩谷看護専門学校

◆◆◆

9 平成23年度学校法人国際医療福祉大学決算報告
10 新しく就任された本学総長と本大学院副大学院長のご紹介
・国際医療福祉大学総長　矢﨑義雄
・国際医療福祉大学大学院 副大学院長　久常節子

◆◆◆

トピックス
10 第16回あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式
11 平成24年度国際医療福祉大学年間成績優秀賞表彰式／2012 IUHW奨学金授与式／フィンランドのパウラ・リシッコ社会保健大臣一行が三田病院を視察／元培科技大学 国際学生学術会議
12 NS平成24年度公開学習会／ST第1回摂食・嚥下セミナー／PS白衣授与式／SHM「新入生歓迎会」開催
13 SHM医療福祉学部フォーラムに200人／大学院医療福祉学研究科M2研究報告会／中央臨床研修委員会「研修医グループ研修・合同オリエンテーション」開催／2011年度卒業生の就職状況報告

施設インフォメーション
14 国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院
15 国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院
16 山王病院／化学療法研究所附属病院
17 高木病院／福岡山王病院／おおたわら風花苑／新宿けやき園

18 卒業生・留学生通信
19 大学院／医療福祉ｅチャンネル

20 学生投稿ページ

## 訃報

本学薬学部の横山秀克准教授が4月21日に逝去されました。（享年49）。
数日後に白衣授与式を控えた中での急な悲報に大変驚くとともに、先生の学生に対する丁寧な教育、熱心な研究姿勢が偲ばれます。
ここに改めてご冥福をお祈りいたします。

（薬学部教員一同）

**【訂正】**

IUHW89号P.2、学長賞の中で、
「薬学科　土子太」とあるのは「薬学科　土子雄太」の誤りでした。
深くお詫び申し上げます。

第23回

Odawara

# 小田原キャンパスレポート

## フレッシュマンキャンプ

四月二一日（土）～二二日（日）、本学部の新入生を対象とした「フレッシュマンキャンプ」を開催し、本学発祥の地である大田原キャンパスと那須セミナーハウスで一泊二日を過ごした。

大田原キャンパス到着後、小田原キャンパスにはない学生食堂での昼食。北島学長と、昨年度まで小田原保健医療学部の学部長であった杉原副学長といっしょに、初めての学生食堂を楽しんだ。

昼食後、北島学長の講話に続き、大田原キャンパスのジャズ研究会による歓迎セレモニーが行われた。

●北島学長とカフェテリアで昼食

●ジャズ研究会の歓迎セレモニー

その後、一八グループに別れて大田原キャンパス構内でのクイズラリー。各グループに大田原キャンパスの学生が一名ずつ付いてくれたものの、決められた時間内で広いキャンパス内をクイズを解きながらの移動は、楽しくもあり、大変でもあったようだ。

クイズラリー終了後、那須セミナーハウスへ移動し、夕食前にグループディスカッション。会場を二つに分け、テーマに沿って真剣に討議を行った。討議が白熱し、夕食のときも引き続き討議をしているグループもあった。

二日目の千本松牧場は天気が心配されたが、爽やかな気温と満開の桜にもう一度春を味わうようだった。

最後に、フレッシュマンキャンプ開催にあたり、ご協力いただいた大田原キャンパスの皆さんへ感謝を述べたい。

（学務課　佐藤浩子）

●本学の宿泊施設、那須セミナーハウスにて

●グループディスカッション「新しい遊びを考えよう」

## 市民公開講座

六月三日（日）、小田原キャンパスでは市民公開講座を行った。

小田原キャンパスの市民公開講座は、他とはちょっと違う。大学の公開講座といえば、「講義形式」をイメージする方が多いと思うが、小田原キャンパスの市民公開講座は「体験形式」である。また、講座で説明を行なうのも学生たちである。よって、市民と学生の交流の場ともなっているのが特徴であろう。

今年のテーマは「測ろう！　備えよう！　心と身体の健康2012」。

身体測定や血圧測定、骨密度や血管年齢を測定し、健康管理に役立てていただきたい。筋力・柔軟性を測定し、ケガの防止に役立てていただきたい。震災への備えやAEDの使い方を知っていただき、いざという時に備えていただきたい。そんな思いを込めて企画された。

市民の方々の対応をする学生は一年生、二年生全員の三一七名。一年生は来場者の受付と案内、二年生が展示物の作成と来場者への測定や説明を担当した。

当日は、雨が予報されていた神奈川県内だったが、晴れ男、晴れ女が多い小田原キャンパスらしく、晴れ間が覗く天候となり、二八五名と過去最多の来場者を記録した。来場者からは、学生の態度や笑顔をほめていただき、「来年も必ず参加します！」との言葉を数多くいただいた。

（総務課　高久晃）

## 「おだぴよ」でのボランティア活動開始！

小田原市が運営する子育て支援センター「おだぴよ」。小田原キャンパスより徒歩五分の場所にあり、学生や教職員のボランティア活動の場となっている。

「おだぴよ」を支援するために、本学で行なうことになった活動は、①教員の訪問、②学生ボランティアの訪問、③講座（座談会）の開催など。

学生や教職員は、授業の合間を見つけ、ボランティア活動に出かけ、利用者の相談に応じたり、乳幼児の面倒を見たりしている。「おだぴよ」の職員によれば、学生や教員の訪問は、「おだぴよ」の利用者から大変喜ばれているとのこと。

「おだぴよ」に限らず、今後も、地域に貢献できる活動を続けて行きたい。

（総務課　高久晃）



第13回

Fukuoka Tenjin

# 福岡天神キャンパスレポート

## この箱（建物）の中でいったい何が起こっているのか？

今年四月、一〇二名の新入生を迎え、ここ天神キャンパスは、一～四年の全学年がそろい総勢三九三名になりました。写真の通り天神キャンパスは一つの箱です。箱の大きさは横二五ｍ×奥行き五〇ｍの一〇階建て。このインスパイア型建築の箱では、学び舎としての機能だけでなく、日々さまざまなドラマが巻き起こっています。東京ディズニーリゾートでは「ハッピーサイクル」を謳っていますが、ここ天神キャンパスも負けてはいません。三年前、一期生は先輩のいない中でスタートし、年を重ねるごとに先輩としての風格も出てきました。たくさんの実習を乗り越え、理想の看護職者に近づくために、今、卒業研究にそして国家試験に向けて日々努力しています。先日、笑い声に誘われ八階の学生ラウンジに立ち寄ると、学年を超えていろいろな面々が話に盛り上がっていました。一期生の四年生を中心にどのような思いで学生生活を送っているのか少しインタビューをしてみたので、その一部を紹介します。

●ドラマティック天神キャンパス（全景）

「先輩がいなかった分、横のつながり強いと思う」

「横のつながりの始まりは運動会だったような気がする」

「探り探りの学生生活だったからこそ、後輩に伝えたいことがたくさんある」

「大学のテストってどんなのかもわからなかった。だから伝えたい」

「一個下に教えたことがまたその一個下に教えていて、間接的に繋がっている感じがある」

「関わりが少ないから恐いと思われているのでは。だから関わりを増やしたい」

「全学年でのイベントをしたい。遊ぶ機会をつくりたい。小さいからこそできるのでは」

「SNSを作っていろいろな思いや学びを共有したい」

一期生は先輩がいないからこそ、その寂しい思いをさせまいと繋がりをつくるべく積極的に声をかけようとしているようです。声かけは看護の基本のひとつでもあります。そして、「間接的に繋がっている」という言葉にあるように一期生が与えた学びや経験の伝達を、後輩たちがまた次の後輩へと「関わりの連鎖」として受け継がれていることを実感しました。小さな箱（建物）だからこそ、顔の見える、名前のわかるコミュニティができつつあるのではないか。そして、その場でパソコンを開き、SNSを立ち上げた行動力も驚きでした。

●インタビューに参加してくれた「1期生」先輩としての風格が見え隠れ

最後の言葉にあるように、残りの学生生活の時間を、そして卒業してからもこの後輩に対する思いや繋がりがさらに広がっていくことを期待させてくれる時間になりました。

## 福岡地区運動会で大躍進！

五月三一日、昨年は雨天のため中止となった福岡地区の運動会が、今年度から福岡リハビリテーション学部との合同で行われました。これまでの二回は、福岡国際医療福祉学院や福岡山王病院との福岡市内での合同開催で、福岡看護学部は勢いに呑まれていた感がありました。しかし、今年は違いました。一年生から三年生がバス六台で完全アウェーの大川キャンパスに乗り込み、総合優勝を二年生が、応援合戦では一年生がそれぞれ栄冠を勝ち取りました。この団結力と行動力をこれからの学生生活で大いに活かしてほしいと願っています。

●男子、これまで最高の18名「1年生」運動会での集合写真

## 感性豊かに表現力も実践力も磨きがかかってきた一期生！

一期生の実習もいよいよ大詰めになってきました。まだまだ緊張の面持ちで実習に臨んでいますが、あいさつや報告、そして患者さんの前で見せる表情も安心して見守ることができるようになってきました。

私の担当する精神看護学実習では、実習最終日に最終カンファレンスとして「フリートーキング」の時間を設けています。学生それぞれが実習でのあらゆる経験を豊かに表現し、学びと感情を共有しています。治療環境を創るのは看護者の役割です。そして看護師もその環境の一部です。実習環境ではスタッフの笑顔が学生の笑顔を引き出し、対話が緊張をほぐしてくれます。これもまた「ハッピーサイクル」です。キャンパスで、実習施設で、たくさんの笑顔が生まれ、笑顔が連鎖していく。そしてケアする喜びとケアされる喜びを経験しながら人もキャンパスも、今この瞬間も成長し続けているのではないでしょうか。

（福岡看護学部　増満誠）

●教育的ケアリングが実を結びつつある「精神看護学実習」臨床指導者、教員とともに

第27回

Okawa

# 大川キャンパスレポート

## 臨床検査技師養成の「医学検査学科」新設

（二〇一三年四月設置計画中）

大川キャンパスでは、臨床検査技師（国家資格）を養成する「医学検査学科」を新設する。これに伴い、現在の福岡リハビリテーション学部を「福岡保健医療学部」に学部名称を変更する。医学検査学科の入学定員は八〇名とし、本学部入学定員を六〇名から二四〇名に、また全学年収容定員六四〇名を九六〇名に増員、完成年度には一〇〇〇人を超える規模のキャンパスとなる。

七月一四日に、高木邦格理事長、金澤一郎大学院長や約七〇名の来賓が見守る中、医学検査学科新校舎の起工式を挙行した。高木理事長は「臨床検査技師の役割は従来とは違い、遺伝子検査、移植のマッチングなど多岐に渡っている。このため、優秀な臨床検査技師への社会ニーズを考え開設を決断した。大学院の立ち上げも検討したい」と挨拶した。また、福岡県臨床衛生検査技師会の友納哲夫会長から「福岡県は臨床検査技師の団体の会員数が全国で四番目に多い。本会から精度管理の事業を全国に広げるなど、本県には発信する土壌がある。そのためにも初期段階の教育が必要なので、ぜひ充実した教育を」と祝辞をいただいた。

医学検査学科では、国際医療福祉大学三田病院検査部長　渡辺清明教授に指導的な立場でご助言を受けながら「遺伝子検査教育」、「生理学検査教育」、「国際人育成教育」への取り組みを行う。なお、臨床検査技師を養成する大学としては、九州では六番目となる。

## 平成二四年度 福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部及び大学院 合同入学式

四月六日、大川キャンパスにて、合同入学式が開催された。福岡リハビリテーション学部一九一名（理学療法学科一〇〇名、作業療法学科四六名、言語聴覚学科四五名）、福岡看護学部一〇二名、大学院三二名（博士課程七名、修士課程二四名、研究生一名）が入学した。

合唱隊の先導による校歌斉唱の後、北島政樹学長、金澤一郎大学院長、高木邦格理事長から式辞が述べられた。続いて、大川市長・植木光治氏、独立行政法人国立病院機構関門医療センター病院長・佐柳進氏より、お祝いと激励のご祝辞を賜った。新入生代表として理学療法学科の吉竹寛騎さんが、「夢や目標に向かい勉学に励みます」と誓いのことばを述べた。

## 平成二四年度 「まなび学」スタート！

今年度新入生を対象に、本学部名物授業「まなび学」が開講された。これは、「大学入門講座」と位置づけ、大学生としての生活の仕方、大学での諸手続きの方法や勉強の仕方、レポートの書き方を初歩から学習し、半年間かけて、大学生活の基盤づくりを行う。さらに、医療人としての心構え・態度なども学習する。

四月には、金出副学長により「社会人・医療人基礎力育成」をテーマにレクチャーが行われた。午後は、三学科横断のグループによるグループディスカッションが実施された。テーマは「医療人の資質について」。結果は、グループ毎にレポートが提出された。

また「まなび学」最大のトピックスは、「アーリーエクスポージャー」と称された「早期臨床体験学習」。当グループの医療福祉施設一〇か所のうち、指定された施設をグループごとに見学していく。

大学での授業は初めは戸惑う学生も少なからずいるだろう。この「まなび学」を通して、多様な視点から"知識""技能""態度"を学ぶ機会として欲しい。

## 福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部合同運動会

五月一九日、大川キャンパスグラウンドにて、福岡リハビリテーション学部、福岡看護学部の「合同運動会」が開催された。福岡看護学部を迎えての運動会は今年が初めて。福岡リハビリテーション学部四チーム、福岡看護学部三チームの総勢約八〇〇名の学生が集結し、七チーム対抗の大運動会となった。

実行委員長の開会宣言、本学部の金出学部長の挨拶、両学部の実行委員による選手宣誓があり、午前中の競技「すしづめ」「ムカデ競走」「大玉送り」と進んだ。昼休みの応援合戦は、どのチームも見事に息の合ったダンスを披露し、女子学生に扮した男子学生が観客を沸かせた。

午後は「障害物競走」「棒引き」と続き、最後の種目「チーム対抗リレー」では、本学部ＯＴ学科チームが二位でゴール。総合優勝の栄冠は福岡看護学部二年生チームに輝いた。

（入試・広報部　望月秀樹／高田奈弥）





第5回

Shioya

# 塩谷看護専門学校キャンパスレポート

**第七回生、四二名を迎え、教科外活動を実施したので二つ紹介します。**

## 合宿

四月一二日～一三日の一泊二日、那須セミナーハウスで行われた。到着後すぐに、一グループが一〇名前後となり、問題解決に取り組むスキルアドベンチャーが開始された。活動が進むにつれコミュニケーションも図れるようになり、目標を達成したときには、あちらこちらで歓声があるようになっていた。活動も終了し、いよいよ食事作り。まいぎり式による火おこしでは苦戦をしたが、一人ひとり役割を遂行し、皆で協力して作り上げた食事は、最高の美味しさであった。夜も仲間と大いに語らい親睦を深めることができた。

後日の合宿の振り返りでは「目標達成に向け、仲間とコミュニケーションを図りながら協力することの大切さ」「これからの三年間、多くの困難なことに出会った時、みんなで看護師になるという気持ちを忘れず乗り越えたい」など多くの発表があった。この学びを学校生活で実践できることが今後の課題である。

●火をおこすところから始めた食事作りを体験

## 地域交流

本校の理念の中で「地域住民の生活に深く関心を寄せることのできる豊かな人間性を培う」ことが挙げられている。この理念の基、地域交流を実施してから、今年度で七年目を迎える。

六月七日に、近隣農家の方々のご協力を得て一グループ五～六人となり、一日農業体験を通して、地域の人々とのコミュニケーションを図り、健康や生活を考える機会となった。内容としては、食の安全により安心した食事に繋がり、健康が守られていること。農業は想像した以上に過酷な労働であり、健康問題を引き起こしやすいことなど様々な視点から考えることができた。

また、農家の方々から学生へ温かい励ましや期待のお言葉をいただき、看護を学ぶ意識も高めることができた。

今回の学びをさらに発展させ、住民の健康の保持増進と生活の向上のために貢献できる看護師となってほしい。

（教務部　黒崎紀子）

●農家従事者の健康問題を考えるきっかけにもなった

Topics

## 平成23年度 学校法人国際医療福祉大学 決算報告

帰属収入においては、薬学部及び福岡看護学部の学年進行により、学納金収入が約五億円増加し、四附属病院も増床効果により、医業収入も約三〇億円の増収となり、補助金及びその他の収入を加え、収入総額は約四四億円の増加となった。

これらの結果、学校法人全体での帰属収支差額は約二七億円の収入超過となった。

なお、東日本大震災の被害により修繕費が約五億円発生したものの、災害修繕引当金を充当したほか、災害復旧事業補助金により相当程度の手当てがなされたため、大きな影響は受けなかった。

また、三田病院の新病棟完成により総資産は約九八〇億円となり、自己資本は五九七億円、基本金は六九六億円に達した。

（経理部長　角田考哉）

### 消費収支計算書

本年度（自　平成23年4月1日　至　平成24年3月31日）
前年度（自　平成22年4月1日　至　平成23年3月31日）

学校法人国際医療福祉大学　（単位：千円）

| 科目＼摘要 | 本年度 | 前年度 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 消費収入の部 | | | |
| 学生生徒等納付金 | 9,241,464 | 8,701,370 | 540,094 |
| 手数料 | 221,401 | 230,555 | △ 9,154 |
| 寄付金 | 397,808 | 257,043 | 140,765 |
| 事業収入 | 363,398 | 315,864 | 47,534 |
| 医療収入 | 31,017,431 | 27,992,281 | 3,025,150 |
| 資産運用収入 | 94,839 | 92,013 | 2,826 |
| 補助金 | 1,674,389 | 1,365,910 | 308,479 |
| 雑収入 | 712,225 | 291,365 | 420,860 |
| 帰属収入合計 | 43,722,955 | 39,246,402 | 4,476,553 |
| 基本金組入額 | △ 2,202,565 | △ 2,449,034 | 246,469 |
| 消費収入合計 | 41,520,390 | 36,797,368 | 4,723,022 |
| 消費支出の部 | | | |
| 人件費 | 17,399,137 | 16,262,529 | 1,136,608 |
| 教育研究経費 | 3,041,109 | 2,729,112 | 311,997 |
| 医療経費 | 12,068,535 | 11,434,464 | 634,071 |
| 管理経費 | 7,672,291 | 6,903,559 | 768,732 |
| 借入金等利息 | 188,022 | 179,245 | 8,777 |
| 資産処分差額 | 606,325 | 144 | 606,181 |
| 徴収不能引当金繰入 | 20,904 | 27,437 | △ 6,533 |
| 消費支出合計 | 40,996,323 | 37,536,491 | 3,459,832 |
| 消費収支差額 | 524,067 | △ 739,123 | 1,263,190 |

### 貸借対照表

平成 24年 3月 31日　（単位：千円）

| 科目 | 本年度末 | 前年度末 | 増減 |
|---|---|---|---|
| 資産の部 | | | |
| 固定資産 | 76,509,366 | 65,435,886 | 11,073,480 |
| 有形固定資産 | 75,936,305 | 64,817,826 | 11,118,479 |
| 土地 | 32,612,437 | 32,612,437 | 0 |
| 建物 | 34,523,768 | 22,809,854 | 11,713,914 |
| 構築物 | 1,234,304 | 1,161,078 | 73,226 |
| 教育研究用機器備品 | 3,659,260 | 3,802,155 | △ 142,895 |
| その他の機器備品 | 3,036,657 | 2,041,816 | 994,841 |
| 図書 | 773,138 | 732,724 | 40,414 |
| 車輌 | 77,316 | 70,587 | 6,729 |
| 建設仮勘定 | 19,425 | 1,587,175 | △ 1,567,750 |
| その他の固定資産 | 573,061 | 618,060 | △ 44,999 |
| ソフトウェア | 30,333 | 34,750 | △ 4,417 |
| 借地権 | 2,190 | 2,190 | 0 |
| 電話加入権 | 4,717 | 4,717 | 0 |
| 有価証券 | 218,855 | 248,855 | △ 30,000 |
| 長期貸付金 | 136,124 | 169,704 | △ 33,580 |
| 差入保証金 | 10,000 | 147,844 | △ 137,844 |
| 長期預け金 | 170,842 | 10,000 | 160,842 |
| 流動資産 | 21,554,926 | 15,902,670 | 5,652,256 |
| 現金預金 | 17,717,761 | 14,133,468 | 3,584,293 |
| 貯蔵品 | 540,172 | 448,235 | 91,937 |
| 短期貸付金 | 45,170 | 4,150 | 41,020 |
| 未収入金 | 3,031,310 | 1,213,793 | 1,817,517 |
| 仮払金 | 4,417 | 21,918 | △ 17,501 |
| 立替金 | 24,189 | 25,912 | △ 1,723 |
| 前払金 | 191,673 | 55,194 | 136,479 |
| 前渡金 | 234 | 0 | 234 |
| 資産の部　合計 | 98,064,292 | 81,338,556 | 16,725,736 |
| 負債の部 | | | |
| 固定負債 | 26,272,318 | 15,974,260 | 10,298,058 |
| 長期借入金 | 25,028,821 | 15,023,387 | 10,005,434 |
| 長期未払金 | 1,031,126 | 744,625 | 286,501 |
| 退職給与引当金 | 212,371 | 206,248 | 6,123 |
| 流動負債 | 12,016,971 | 10,699,788 | 1,317,183 |
| 短期借入金 | 1,513,166 | 907,066 | 606,100 |
| 未払金 | 2,016,399 | 1,333,879 | 682,520 |
| 前受金 | 7,843,231 | 7,840,391 | 2,840 |
| 預り金 | 641,543 | 617,400 | 24,143 |
| 仮受金 | 2,632 | 1,052 | 1,580 |
| 負債の部　合計 | 38,289,289 | 26,674,048 | 11,615,241 |
| 基本金の部 | | | |
| 第1号基本金 | 66,481,856 | 64,582,861 | 1,898,995 |
| 第2号基本金 | | 0 | 0 |
| 第4号基本金 | 2,798,000 | 2,506,000 | 292,000 |
| 基本金の部　合計 | 69,279,856 | 67,088,861 | 2,190,995 |
| 消費収支差額の部 | | | |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | 9,504,853 | 12,424,353 | △ 2,919,500 |
| 消費収支差額の部　合計 | △ 9,504,853 | △ 12,424,353 | 2,919,500 |
| 負債の部、基本金の部および消費収支差額の部　合計 | 98,064,292 | 81,338,556 | 16,725,736 |

# 新しく就任された本学総長と本大学院副大学院長のご紹介

四月一日より、国際医療福祉大学に矢﨑義雄総長が、国際医療福祉大学大学院に久常節子副大学院長が新しく就任されました。新総長と新副大学院長のご挨拶をご紹介いたします。

## 国際医療福祉大学総長
## 矢﨑 義雄

東京大学医学部卒業。医学博士。
東京大学医学部教授、東京大学医学部長、社団法人日本内科学会理事長、一般社団法人日本循環器学会理事長、日本医学会副会長などを歴任。前独立行政法人国立病院機構理事長。全国一四四の国立病院を一括管理運営する独立行政法人国立病院機構の責任者として、提供する医療の質向上と経営基盤の安定化に手腕を発揮。

四月に、国際医療福祉大学総長として就任いたしました。医師不足対策の一環としてチーム医療の推進をめざし、医療職全体の能力向上のための教育改革に携ってまいります。

現在、医療と介護を必要とする人々は、この一〇年強の間に三〇〇万人も増加すると予測されています。その結果、福祉介護に携わる人材は約一〇〇万人、看護に携わる人材は二〇万人から三〇万人不足するとされています。そこで、医師を中心とした従来のピラミッド型の医療福祉の提供体制ではなく、今後は職種を超えて、患者様を中心にその知識と経験そして技術を持ちよる「チーム医療・チームケア」、皆で協働して行うプラットホーム型の提供体制の構築が、社会的な喫緊の課題になっています。

本学は、医療福祉の多彩な専門職が活躍する四つの附属病院をはじめ、充実した多数の教育施設と、第一線で活躍している優れた教育スタッフにより、恵まれた教育環境で、将来のメディカルスタッフをめざす学生を分野間の連携を密にしつつ育成しています。すでに医療福祉現場で活躍している一三〇〇〇名以上の卒業生たちが、医療福祉の高度化・専門化に対応しながら、修得した高い技術と知識そして豊かな教養をもって、全国でその社会的使命の重責を果たしています。

来年三月には、福岡県大川キャンパスに、患者様の診断を支える臨床検査技師を育成する「医学検査学科」が新設されます。夢を持った若者達が「共に生きる社会」の実現をめざす本学の理念のもと、これからの日本の医療福祉を担うべく集結することを切に願っております。

## 国際医療福祉大学大学院副大学院長
## 大学院看護学分野責任者
## 久常 節子

前社団法人日本看護協会会長、元慶応義塾大学看護医療学部教授、元厚生省健康政策局看護課長、医学博士

大田原市に国際医療福祉大学が開学した一九九五年当時、その開学記念行事に厚生省（当時）の看護課長として参加したことが、昨日のことのように思い出されます。それが今や大学は拡大発展し、大学院も博士課程までできていました。

四月一日からそれぞれの入学式に参加し、その発展ぶりに圧倒されました。大学院修士課程の入学者は、現場経験をしっかり積んだリーダーたちが多く、この特徴を生かした教育提供体制を作れば興味深い大学院教育ができると思いました。入学者の熱い期待を裏切らない、特徴ある大学院運営を開発できればと思い、大田原、小田原の二つの看護学科と福岡看護学部、そして東京青山キャンパスの看護教員で、大学院教育の連携調整会議を立ち上げました。四キャンパスの看護教員の連携、相互学習体制の確立により、大学院教育の一つのモデルをめざしたいと思います。

# 第一六回 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式

六月一一日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社本社で、同社の立山会長、鈴木社長、本学の高木理事長、北島学長らが列席し、奨学生認証式が行われた。

今年は一二名が奨学生に選ばれ、平成九年の本制度創設時からの奨学生総数は一四〇名となった。

一人ひとりに認証状が授与され、鈴木社長および高木理事長からの「初心を忘れず勉学に励み、社会の役に立つ人になってもらいたい」という激励の言葉で式は終了した。

**奨学生（新規採用者）**

■保健医療学部
看護学科　近藤光恵（二年）
理学療法学科　阿久津瑞季（二年）
言語聴覚学科　木村友美（二年）
放射線・情報科学科　大島佳奈（二年）
放射線・情報科学科　船越萌香（二年）
視機能療法学科　渡邉杏子（二年）

■医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
堀田真奈実（二年）
アルド・サンドゥイ（一年）

■薬学部
薬学科　今井希瑛（二年）

■小田原保健医療学部
看護学科　佐々木智子（二年）

■福岡看護学部
看護学科　中村美里（二年）

■福岡リハビリテーション学部
理学療法学科　木庭知美（二年）

（東京事務所広報室　東條かおる）



平成24年度

# 国際医療福祉大学 年間成績優秀賞 表彰式

六月一二日、大田原キャンパスで本学年間成績優秀賞の表彰式が行われた。

北島学長をはじめ、各学部長・学科長が列席し、一人ひとりに表彰状が授与された。

**優秀賞受賞者**

■保健医療学部
看護学科
●鈴木裕也（二年）●大橋未怜（三年）●清水綾華（四年）
理学療法学科
●新井悠太（二年）●土屋貴恵（三年）●木村美佳子（四年）
作業療法学科
●米田歩（二年）●大貫わか菜（三年）●山田愛（四年）
言語聴覚学科
●藤田有香（二年）●菅原遙香（三年）●笠原真紀（四年）
視機能療法学科
●安島菜摘（二年）●平野亜季（三年）●髙松千波（四年）
放射線・情報科学科
●吉田裕一（二年）●髙見光咲（三年）●小濱達也（四年）

■医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
●菅野歩美（二年）●宇賀神泉（三年）●川守田作基子（四年）

■薬学部
薬学科
●遠藤彩香（二年）●鈴木真（三年）●手塚千裕（四年）
●福島将太（五年）●小室聖治（六年）

■小田原保健医療学部
看護学科
●鈴木昌子（二年）●佐藤美（三年）●鈴木菜緒（四年）
理学療法学科
●高橋宋也（二年）●島田真衣（三年）●塚本佐保（四年）
作業療法学科
●竹下由真（二年）●鈴木美咲（三年）●井上沙由理（四年）

■福岡看護学部
看護学科
●西山明日香（二年）●吉村小夜子（三年）●黒田茜（四年）

■福岡リハビリテーション学部
理学療法学科
●武田津香紗（二年）●堤まとか（三年）●中元唯（四年）
作業療法学科
●齋藤禾桂（二年）●坂井和美（三年）●中元華穂（四年）
言語聴覚学科
●井上理穂（二年）●田口智子（三年）●友池理歌（四年）

（大田原キャンパス　学生課）

# 2012 IUHW奨学金授与式

四月三日、大田原キャンパスにて、IUHW奨学金授与式が行われた。本学では、アジア婦人友好会及びアジア各国の在日大使館による推薦で、医療福祉における自国への貢献を目指す海外からの留学生を毎年一名受け入れている。この奨学金制度は、在学中の学費から住宅環境までフルサポートを行うスカラシップ制度で、二〇〇一年に始まった。その目的は、アジアにおける医療福祉の発展に、本学として寄与することである。

今年度の受給者は、医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科に在籍するモンゴル国出身のアルド・サンドゥイさん。高木理事長に続いてアジア婦人友好会加藤理事長より祝福の言葉を賜り、北島学長より奨学金が授与された。また、在日モンゴル国大使館のドルジ・ガンディマー大使夫人から祝福の言葉が述べられた。

サンドゥイさんは、将来母国で福祉分野の発展と医療福祉専門職の地位向上に全力で臨むために、この勉学の機会を一生懸命活かす旨、決意の言葉を述べた。

●右から加藤理事長、ガンディマー大使夫人、サンドゥイさん

（国際部　加藤剛太）

# フィンランドのパウラ・リシッコ社会保健大臣一行が三田病院を視察

三月二七日、フィンランドのリシッコ社会保健大臣一行が三田病院を視察に訪れた。今回の視察受入れは、在日本フィンランド大使館からの要請によるもので、冒頭、北島学長、小川病院長のご挨拶のあと、日本の社会保障制度や東京都認定がん診療病院・救急告知病院としての三田病院の役割などについて説明しました。

リシッコ大臣は看護師でもあり、フィンランドの国立セイナヨキ応用科学大学の副学長も経験されていることから、日本の医療制度を中心に活発な意見交換が行われた。

また、三月二三日には、外務省・経産省の要請により、中央・アジア・コーカサス地方の記者八名を視察に受け入れる等、新病院となった三田病院では国際交流活動が活発になってきている。

●中央がリシッコ大臣

（東京事務所秘書室　服部是史）

# 元培科技大学 国際学生学術会議

平成二四年三月二二日～二五日、本学協定校の台湾元培科技大学にて毎年恒例の国際学生学術会議が行われた。七か国一三大学から学生・教員四九名が参加し、医療・福祉・保健の各分野での研究成果の講演や発表を行った。本学からは、北島政樹学長、中田健吾講師（医療福祉・マネジメント学科）、川守田作基子さん（同学科三年＝当時）の三名が参加した。

北島学長による基調講演や川守田さんの学生発表には、多くの出席者が熱心に耳を傾けて議論をした。歓迎レセプションでは、元培科技大学の蔡雅賢・執行理事、北島学長をはじめとする会議出席者・関係者全員が参加して大いに親睦を深めた。最終日には、学生ボランティアと共に台北市内を視察し、台湾文化に触れることができた。川守田さんは、この経験を通して英語コミュニケーションの必要性を感じ、海外研修への参加を決めた。当会議は、本学の国際人の育成に一役買っている重要なイベントと言える。

●発表する川守田さん



●北島学長の基調講演

（国際室　田中浩子）

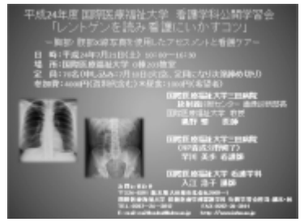
看護学科

## 平成二四年度 公開学習会

### 「レントゲンを読み看護にいかすコツ」胸部・腹部X線写真を使用したアセスメントと看護ケア

今年の看護学科公開学習会は、七月二一日、三田病院の縄野繁医師と早川美歩看護師（ナースプラクティショナー養成分野修了）を招き、本学科入江浩子講師と共にレントゲン写真（胸部・腹部）の読み方、看護へのいかし方について学習した。

臨床で身近にあるX線写真の画像を見てケアにいかすことについては、基礎教育で十分な教育をしていないこともあり、一般的に臨床看護師は苦手意識が強いと思われる。そこで、苦手意識をなくし、身近に感じ気軽に見る読むきっかけとなり日々の看護にいかせることが目標である。レントゲン写真の基礎から、正常と異常の区別、看護への応用までを学び、グループワーク演習も加え充実した内容を企画した結果、新たな知識に触れ明日への英気を養うことができた。




（看護学科講師　髙久弥生）

言語聴覚学科

## 第一回 摂食・嚥下セミナー

五月一九日、平成二四年度第一回摂食・嚥下セミナーを市民や地域の医療福祉従事者・学生を対象に、本校F101教室にて開催した。事前申し込みだけで約七〇名、当日参加者を含めると三〇〇名近い参加者が集まった。

セミナーは三部構成で、講演一では、新美成二教授（言語聴覚センター長）による「飲み込みの医学―犬はむせますか？」というテーマで、嚥下生理を分かりやすく講演いただいた。

講演二では、柴本勇准教授による「安心して食事を楽しむために―リハビリ方法を伝授します」というテーマで、実際のリハビリ方法の実技や写真等を多用し、丁寧に講演いただいた。最後に、質疑応答を行い、活発な討議を繰り広げた。

参加者の熱心な聴講姿勢から、摂食・嚥下障害における適切な対応が社会的にも求められていることを痛感した。今後も、高齢化を迎えた地域社会を支援するために、継続的な開催を企画する。

●講演する新美教授

（言語聴覚学科助教　平田文）

薬学部

## 白衣授与式

四月二五日、大田原キャンパスにおいて本年度実務実習に参加する五年生一四〇名への「白衣授与式」が行われた。授与式は、武田弘志薬学部長の式辞から始まり、代表者一二名への白衣の授与、代表学生二名による宣誓となった。大学ロゴ入りの真新しい白衣に手を通した、福島将太さんと篠加奈子さんは、緊張しつつも五月からの実務実習に向けて、意気込みと決意を読み上げた。

続く挨拶では、北島政樹学長、蘇原泰則病院長、栃木県薬剤師会・伊沢一郎副会長より激励の言葉をいただいた。

本授与式には、来年度実務実習に行く四年生も参加し、緊張した面持ちで先輩たちの晴れ姿を見守っていた。

実務実習第一期は五月一四日から七月二九日、第二期は九月三日から一一月一八日、第三期は来年一月七日から三月二四日の日程で実施される。各学生は、第一期から三期の内、病院と調剤薬局に各々一一週の実務実習を行うことになっている。

●白衣に腕を通す5年生

（薬学部　徳村忠一）

医療福祉・マネジメント学科

## 「新入生歓迎会」開催

四月二一日、花曇りの土曜日、二年ぶりの「新入生歓迎会」を開催した。新入生一七七名と二年生一三三名、教員二〇名、総勢三二〇名の盛大な会となった。

朝九時の体育館、小林学科長のラジオ体操の号令で幕を開けた。一年生の入門ゼミを単位に、一年生と二年生一五名のチームとなって、体育館でのドッジボール大会と、構内をめぐってのオリエンテーリングに臨んだ。

花冷えの朝、初対面の緊張と寒さから動きがぎこちなかった新入生たちも、ドッジボールの直撃を受けて体育館には歓声が溢れ、構内のポイントごとに出現する仮装教員に驚きの悲鳴がこだました。

昼食会ではサンドイッチがもの足りなく感じるほど、みんなよく動きよく遊び、優勝チームには豪華景品が贈られた。

今年参加した二年生は、自分たちの歓迎会をしてもらっていない。昨年三月の大震災でかけがえのない学生を失い、歓迎会は中止になった。その二年生が集って、新入生を温かく迎えてくれた。一年生は後日、先輩に感謝状を書いた。春のこの行事がずっと続くようにと願った一日だった。

（医療福祉・マネジメント学科准教授　加藤尚子）





## 医療福祉学部フォーラムに二〇〇人

医療福祉学部フォーラム「これからの医療福祉に求められる人材育成」が五月二七日、宇都宮市で開催された。

北島政樹学長の挨拶に続く第一部では、杉原素子学部長が「『生きる』を支える～医療と福祉の連携～」をテーマに基調講演。専門職の連携の重要性を訴えた。

第二部のパネルディスカッションでは、済生会宇都宮病院の吉田良二院長、栃木県看護協会の河野順子会長、下野新聞の鷹箸浩報道センター長、卒業生でNPO法人いかんべ理事長の小野寺真也さん、卒業生で栃の実荘事務職の長谷川裕久さんが登壇。医療マネジメント分野長の山本康弘教授をコーディネーターに、「医療、福祉、マネジメントのわかる専門職の重要性」について討議した。

第三部は、卒業生でシンガーソングライターのえりのあさんと小林雅彦学科長によるトークライブ。えりのあさんの学生時代の話や歌を通じて福祉・介護職のやりがいについて語った。

同時開催された進学相談会には多くの高校生が来場。教職員の話に熱心に耳を傾けていた。

（医療福祉・マネジメント学科講師　中田健吾）

大学院

## 医療福祉学研究科 M2研究報告会

六月三日、梅雨入りを思わせるひんやりとした薄曇りの朝、大田原、東京青山、小田原、福岡の各キャンパスを遠隔システムで結び、医療福祉学研究科修士二年生の研究報告会が開催された。

東京青山キャンパスの第一会場から金澤大学院長の激励の挨拶があった後、一三九名の院生がそれぞれのキャンパスで、研究内容・研究経過についてプレゼンテーションを行った。

本大学院では、在学中の全期間を通して研究指導教員による学位論文作成のための研究指導が行われているが、毎年次開催されるこの研究報告会は、それまで進めてきた自分の研究について報告し、他分野の教員や院生を含む幅広い参加者から批評、助言をいただくことで研究内容をより深めることができる貴重な機会である。本日の成果が、秋には全ての院生の修士論文に結実してくれることを心より祈ります。

（東京青山キャンパス　小峰辰也）

中央臨床研修委員会

## 「研修医グループ研修・合同オリエンテーション」開催

四月一九日～二一日の三日間、恒例の初期臨床研修医合同オリエンテーションを開催した。ご協力をいただいた多くの皆様にここに改めてお礼申し上げます。

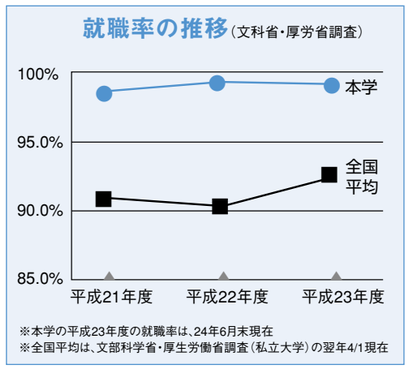
今年は、当グループの基幹型四病院（国際医療福祉大学病院、三田病院、熱海病院、高木病院）の本年入職の初期臨床研修医一八名が、一日目栃木、二日目東京、三日目熱海という日程で研修を行った。

学長、総長、大学院長をはじめとした今回の講義は現場ですぐに役立つものである。また、大田原キャンパスやグループの病院も見学し、当グループの、組織力の大きさに実際に触れることができ、とても良い経験になったと思う。今回の企画が一八名の研修医にとって、今後の研修の方向性を考えたり、将来の自らの医師像を展望したりする機会になれば光栄である。

一八名の皆さんには、これから二年間の研修期間の中で何か迷うことがあったら、今回の諸先輩の教えを思いだしてもらえれば、そこにきっとヒントがあることを頭に入れていただきたいと思う。

（医学教育研修センター長　天野隆弘）

## 2011年度 卒業生の就職状況報告




サンデー毎日の平成24年7月29日号「大学就職率ランキング（卒業生数1000人以上）」で上位の多くを国立大学が占めるなか、本学は私立大学で第1位（3年連続）、全国で第3位を獲得しました。

学科別の就職先については本学ホームページをご覧ください。

附属病院

## 国際医療福祉大学病院

### 第七回 健康教室を開催

七月二八日（土）、当院B棟五階講堂にて、『妊娠中の疾患について』をテーマに第七回健康教室を開催した。当院の山田哲夫副院長（周産期センター長）が講師となり、六二名の参加者を迎えて、教室が開催された。

第一章では、「妊娠初期の疾患」について説明し、流産・つわり・子宮外妊娠について解説した。

第二章では、「妊娠後期の疾患」について説明し、妊娠中毒症・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離・早産の原因と予防方法・子宮内胎児発育遅延（FGR）の予防方法について解説した。

第三章では、「分娩時の疾患」について説明し、微弱陣痛・過強陣痛・児頭骨盤不均衡（CPD）・胎児機能不全とその治療方法・帝王切開について解説した。

当日は、妊娠中の女性やそのご家族、これから妊娠を考えているご夫婦が熱心に聞き入っていた。質疑応答の時間には、ご参加頂いた方々からのいくつもの質問が挙がり、山田副院長がわかりやすく、丁寧に回答した。

（総務企画課）

### 院内保育室開設

塩谷病院では、四月より院内保育室を開設した。これまでも看護部を中心として強い要望があり検討をしていたが、このたび、病院一階のこれまで図書室として利用していた部屋が改装により、保育室として生まれ変わった。この場所はロッカー室の向かい側にあることから、お母さん方が子供の送り迎えをするのにも都合の良い場所となっている。

●新装された保育室で

保育士が三月に二名入職し、新しい保育室を一からスタートした。最初は手探り状態であったが、託児を開始するにつれ、保育室として様になってきた。四月に開設したばかりであることから、定例的に預かる子供の数はまだまだ少ないものの、土曜日や日曜日などにスポットで預かる数は、口コミ等により増えてきている。

さらに、四月に一人、五月に一人の保育士が入職し、シフトへの対応も可能になってきており、更に託児数が増えることを期待している。また、栄養科にも美味しいお昼御飯と手作りのおやつを作ってもらっており、子供たちはもちろん、お母さん達からの評判も良いようである。

病院のホームページにも看護師募集のところで保育室の紹介をしており、未来のお母さんの力強い味方になれることから、将来のことを考えた時に、就職先を選ぶ時のポイントとして欲しい。

病院の片隅から、子供たちの明るい笑い声や歌声が聞こえることで、患者様や職員への癒しの効果もあり、塩谷病院のますますの発展にも一役買っているのではと思っている。

（事務局）

●栄養料による昼食







附属病院

## 国際医療福祉大学三田病院

### 第五回健康セミナーを開催

七月二一日、第五回健康セミナーを開催した。内科部長の佐藤敦久教授が「どうする？　高血圧と減塩のコツ」をテーマに、過剰な食塩摂取の悪影響と実践できる減塩のコツや、見逃してはいけない高血圧の疾患・原発性アルドステロン症についてわかりやすく解説した。参加者はこれまでのセミナー最多の一八〇名で、質疑応答でも活発な質問が相次ぎ、健康に対する関心度の高さがうかがえた。

次回の第六回健康セミナーは、八月一八日(土)、副院長・脊椎脊髄センター長の福井康之教授による「元気に歩こう！よくなる坐骨神経痛」で、坐骨神経痛を引き起こす二大疾患である腰部椎間板ヘルニアと腰部脊柱管狭窄症について、第七回は呼吸器センター長・佐藤哲夫教授による「その息切れは年のせい？知っておきたいCOPD」を予定している。

### 第10回 Team Watanabe Tokyo こども医学教室を開催

七月二六日、小学四年生から中学三年生を対象に心臓外科主催の「第一〇回Team Watanabe Tokyoこども医学教室」を開催した。将来の医学の発展を担う若い世代に最先端の医療の現場を見て興味を持ってもらい、次代の医師を育てるきっかけとなることを目的とするもので、国際医療福祉大学客員教授・三田病院心臓血管センターの渡邊剛先生の心臓手術が今年の五月から始まった当院では初の開催だった。

六階の手術室と一一階の三田ホールを回線でつなぎ、渡邊剛先生執刀の弁膜症心臓手術を生中継し、執刀中の渡邊剛先生と質疑応答ができたほか、金沢大学心肺・総合外科の石川紀彦先生による「ロボット(da Vinci)手術について」、同大学心肺・総合外科の小田誠先生による「肺(呼吸器)手術について」の講演も行われた。その他にも体験コーナーとして、豚の心臓や肺を触ったり、**実際に手術で使用する電気メスを使ったりできる**コーナーなども設けられた。五一組(二名の参加児童と保護者たちは積極的に手を挙げたくさんの質問を投げかけ、体験コーナーにも興味深く取り組んでいた。最後には、参加児童に修了証の授与があり、盛況のうち終了した。

（総務企画課）

附属病院

## 国際医療福祉大学熱海病院

特別講演会

### 「高齢社会と医療」

四月一九日、当院地下一階の大会議室において、特別講演会が開催された。今回の講演会では、国立長寿医療研究センター総長の大島伸一先生をお招きし、「高齢社会と医療」と題して、今後より高齢化が進んでいくことが予測されている日本における医療の在り方や、医療連携の重要性について分かりやすく解説していただいた。

一〇二名の職員が参加し、興味深く耳を傾けた。

（総務課　篠原拓真）

### 第五六回 熱海病院院内学術懇話会

当院では院内学術懇話会を定期的に開催し、各部署間の情報交換や各職員の知識と意欲の向上に役立てている。

五月二五日に、第五六回目の院内学術懇話会が開催された。演題は左記の通りで、一一九名の病院職員が参加し、活発な意見交換が行なわれた。

**臨床検討会**

（司会：小野孝彦　内科教授）

●退院調整への取り組み

橋口紗枝子　西堀めぐみ　細川直美　猪野智佳

（5階病棟看護部）

●特異な経過を辿った閉塞性腎不全の一例

栗山　学　三浦一陽　木内孝樹　宮下由紀恵　金子真也

（泌尿器科）

北村　創　桐原利規　遠藤良美　杉山晴香

（病理室）

川本昌和　羽鳥慎祐　田邉浩悌

（外科）

**第五一回CPC**

（司会：田邉浩悌　外科准教授）

●CPAにより救急搬送され、CPRにより自己心拍再開後、CTにて右気胸、血液検査で高K血症を認めた67歳男性例

臨床：大西啓介（研修医）　山田佳彦（内分泌代謝内科）

病理：大西啓介（研修医）　北村　創（病理学）

（総務課　篠原拓真）

臨床医学研究センター（東京地区）

# 山王病院

## さんのう健康講座

### 「糖尿病教室」

昨年に引き続き、内科の田嶋紀子部長、大田真理医師をはじめとする充実した講師陣を揃え、六月三〇日（土）、「糖尿病教室」が開催された。生活習慣病の筆頭に上げられる「糖尿病」をテーマにした講演ということもあり、事前申し込みを上回る四二名の方が非常に高い関心を持って参加された。

今回、講師として初めて、山王メディカルセンターの臨床工学技士である北村好隆氏が「糖尿病とフットケア」についての話も交えたのは新しい試みである。なぜ糖尿病対策に足の手入れが必要なのか、手入れを怠るとどうなるのかなど、ドキリとするような症例写真を提示しながら注意点を丁寧に説明し、参加者からはため息と悲鳴ともつかない声が漏れるほどであり、皆様が真剣に耳を傾け、うなずく様子が印象的であった。

講演終了後も、参加者の質問や疑問に対して講師陣が気さくに話をする時間を設け、血糖自己測定のデモンストレーションのコーナーでは、たくさんの方が関心を示し測定を行った。これまでになかった内容や試みが、リピーターにも新規のご参加者にも好評だったようだ。

●糖尿病に対する関心の高さから多くの参加者が集った

### 「不妊セミナー」開催のご報告

七月二八日（土）、堤治病院長、藤原敏博リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター長を講師とする「不妊セミナー」が開催された。このセミナーは、当院の「リプロダクション・婦人科内視鏡治療センター」で診療に携わる経験豊富な医師・看護師・培養士が、それぞれの担当分野において有用と考えられる情報をわかりやすくご紹介するものである。妊娠を希望する、あるいは不妊治療を不安に思うカップルの方々に向け不妊治療一般についての解説を行い、その理解を深めていただくことを目的としている。

今回は当院の関連施設であり、堤病院長が教授を務める国際医療福祉大学大学院との共催により、規模を拡大して開催したが、予想を上回る多くの方にご参加いただける結果となった。

（総務課）

臨床医学研究センター（千葉地区）

# 化学療法研究所附属病院

## 第二〇回けんこう教室」

### 「あなたの身近な心臓病」

化研病院では五月一九日、第二〇回けんこう教室「あなたの身近な心臓病」を開催した。参加者は午前と午後合わせて、二八二名と、多くの方に来ていただき、その後、改めて外来に来られる方も目立ち、心臓病に対する関心の高さをうかがうことができた。

講師は、目黒知己循環器内科部長（司会・西野院長）で、身近な危険因子から動脈硬化、虚血性心疾患を経て心不全へ至る経過と、心臓病の予防法についてわかりやすく解説した。予防法では、「予防に勝る治療なし」ということで禁煙や、塩分を控えた食事、更に歯磨きも大切な対策であると指摘され、予防の重要性を強調された。

参加者からは、「心臓病に対して、とても論理立てて理解できた」「説明はわかり易く丁寧でした。食事療法に気をつけたいと思います」などの声が聞かれた。

●予防の意識を高めたわかりやすい講演だった

### 新病棟開設予定

来年八月新病棟開設に向けて、いよいよ工事が始まった。

今回の工事は、老朽化した東病棟建て替えに伴い、回復期リハビリテーション病棟を新たに開設するものである。これにより、急性期―回復期―慢性期と統合的な医療を実現し、スムーズに在宅医療へと繋げる、切れ目のない医療サービスを提供して行くことができる。併せて、地域からのニーズが高い人工透析、がんの外来化学療法、予防医学ドックの拡充も進める。

工事期間中、患者様にはご不便をお掛けしますが、無事に工事が完了する様、職員一同、患者様への心遣い、サービス向上に尚一層努めて参りたいと思っています。

（総務人事課　小林由紀子）

化研病院では定期的にけんこう教室を開催し、講演後はリハビリ体操や医療相談も行っている。今後も皆様のご意見を取り入れながら、病院として、地元への貢献を続けていきたい。

●公演後のリハビリ体操

臨床医学研究センター（九州地区）

# 高木病院

## 「食」をテーマに六五〇人が聴講

『世界的権威に学ぶ　不老長寿の健康食』をテーマにした第六回大川市「未病と健康のつどい」が六月三日、同市文化センターで開かれた。

このつどいは、市民の健康増進を図るための医療講演会で、植木光治大川市長と山本匡介高木病院名誉院長の協力で始まり、日本未病システム学会常任理事でもある山本名誉院長が開催責任者を務めている。今回は未病治療の最大のテーマである「食」を取り上げ、約六五〇人の参加者は熱心に耳を傾けた。

●講演①『栄養士からみた食の基本～成人病予防のための食事』
井上聡子　高木病院栄養課係長

●特別講演①『乱れた食生活への警鐘～あなたの食事、大丈夫ですか?』
菅野道廣　九州大学・熊本県立大学名誉教授（油脂食品と健康の研究で世界的に著名）

●特別講演②『長寿食世界探検～長寿の秘訣は食にあり』
家森幸男　武庫川女子大学国際健康開発研究所所長（世界保健機関の協力を得て二五か国六〇を超える地域で、血管の病気と栄養の関係を調べ、長寿食の謎を科学的に解明した第一人者）

（広報室　関屋真由美）

●メモを取りながら熱心に聴く参加者

臨床医学研究センター（九州地区）

# 福岡山王病院

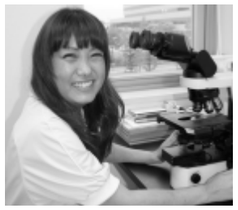
## 臨床検査技師江口さんが最優秀賞を受賞

福岡山王病院の臨床検査技師　江口加奈子さんが、六月に三重県津市で開催された「第六一回日本医学検査学会」の一般演題若手部門で最優秀賞を受賞した。若手部門は同学会で今年創設されたもので、江口さんが栄えある第一回目の受賞者となった。

受賞したテーマは「当院における免疫組織化学染色法の至適条件の検討」。江口さんは、平成二三年四月に福岡山王病院に入職した臨床検査技師で、現在は病理部門を担当する技師として日々、顕微鏡に向かっている。入職後半年を経たころから、先輩の坂梨史典技師の指導を受けながら、発表に向けて作業を進めてきた。

今回初めて学会に参加した江口さんは「他の病院の臨床検査技師の方からアドバイスをいただいたりもしましたので、参加して良かったです」と手応えを感じたようだ。次の目標は「細胞検査士の認定も取得したい」と意欲的に話していた。

（九州地区広報担当・原田ちはる）



●顕微鏡に向かう江口さん

臨床医学研究センター（栃木地区）

# おおたわら風花苑

## 最期まで本人らしい生活を…

おおたわら風花苑では、関係医療機関の協力の下、施設内での看取りを行っている。食事が摂れず、胃ろう等の延命を希望しない方が、年間一五名ほど当苑で最期を迎えている。

**「最後に一度家に連れていって住み慣れた家を見せてあげたい」**

**「夫のお墓参りをしたい」**

などの家族や本人の希望を尊重したり、家族に宿泊していただいたりしながら、悔いのない人生の最期を迎えられるよう支援している。

このように、家族の皆様とともに利用者の最期に関わらせていただけることに感謝している。

今後も職員と家族が一体となり、利用者が温もりのある生活が送れるよう支援していきたい。

（生活相談員　佐藤博基）

臨床医学研究センター（東京地区）

# 特別養護老人ホーム新宿けやき園

## 井上冬彦氏写真展「サバンナの風に吹かれて」開催

五月一九日～二三日、一階けやき広場にて、井上冬彦氏（写真家、井上胃腸科・内科クリニック院長）の写真展が開催された。井上氏は八七年に初めて東アフリカを訪れ、自然と動物をテーマとする写真活動に入った。食事の順番を待つライオンの子供、大草原を行くヌーの群れなど、懸命に生きる動物たちや大自然の圧倒的な美しさを撮り続け、九五年、写真集「サバンナが輝く瞬間」（三修社）がアマチュア作品の最高賞である林忠彦賞を受賞。ボランティアでイベントを企画した菅家肇さんは、お父様が三年間、けやき園に入居していたことがきっかけで本展を企画したという。

「介護をしている方々に見てもらいたい。五分でもいいからほっとして、優しい気持ちになってもらえたら。今後も、山の写真展などを企画したい」と語ってくれた。

（東京広報室）

●利用者はもちろん職員も癒された

IUHW 卒業生・留学生通信 2012.7

# 患者様の心に寄り添うセラピストであり続けたい

**二〇〇九年三月、福岡リハビリテーション学部第一期生として卒業後、現在もなお、生まれ育った広島を離れ、北九州市内の病院で作業療法士として活躍を続ける中村久美さんにご寄稿いただきました。**

■医療法人敬天会東和病院勤務　作業療法士　中村久美（広島市立沼田高校出身）

私は、現在回復期病棟に所属しており、五～七名ほどの患者様のリハビリテーションを担当させていただいております。

その中で特に心がけていることは、患者様とのコミュニケーションを大切にするということです。患者様にとって、入院生活は非日常的な環境であり、悩みや不安、ストレスを抱えている方がたくさんいらっしゃいます。そのような環境の中、訓練以外の時間もできるだけ患者様と接する機会を持つようにしています。リハビリテーション室では遠慮して話せなかったことも、病室であれば気軽に相談してもらえることもあるのです。

そのため、朝、出勤すると、まず患者様のベッドサイドへ行き、

「おはようございます。お変わりありませんか」「今日も頑張りましょうね」

などとご挨拶して回ります。そして夕方には、

「今から帰りますね。明日もよろしくお願いします」

と声をおかけして帰るようにしています。これらを習慣にしたことで、患者様のちょっとした変化にも気づくことが多くなりました。患者様には私たちリハビリテーションスタッフが身近な存在であることを感じてもらい、安心感をもってリハビリテーションに取り組んでいただくことが、何よりも大切だと考えています。

私自身、高校時代に競泳で腰痛を患い、リハビリテーションを受けた経験があります。担当セラピストの方は治療をしながらも、私の話をとてもよく聞いてくださいました。それが心強い支えとなり、不安な気持ちを持ちながらも前向きにリハビリテーションに取り組める要因となりました。その頃から、身体機能面だけでなく精神面のケアの大切さを深く考えるようになり、それは臨床に出てからも日々実感しています。

不安なのは患者様ご本人だけではありません。周りで支えているご家族も同じです。作業療法士としての知識や技術が大切なのはもちろんですが、それ以上に「人」として温かみのある、「心に寄り添う」セラピストであり続けたいと思っています。

## 留学生紹介コーナー

**今年度は二名（学部七、大学院四、研究生二）の留学生が大田原キャンパスに入学しました。写真は、留学生による歓迎会のひとコマです。今号では、新入生三名を紹介します。**

### アルド・サンドゥイさん（モンゴル）

医療福祉・マネジメント学科一年

モンゴルのウランバートル出身です。スポーツや音楽が好きです。日本のバンドでは「いきものがかり」が好きです。「いきものがかり」の音楽が好きな人は、ぜひ私に声をかけてください。

私は将来、モンゴルの福祉充実の役に立ちたいと考えています。特に、モンゴルの身寄りのない子どもたちのための施設を作りたいです。

本学で医療福祉の勉強を始めることができ、夢への大きな一歩を踏み出すことができました。（11ページもご覧ください）

### ライ・ムさん（中国）

理学療法学科一年

出身は中国の内モンゴルです。中国の大学ではリハビリテーションについて勉強しました。理学療法について深く学び、資格も取得したいと考え本学に進学しました。

私は旅行が大好きです。去年の夏は友達とレンタカーを借りて北海道旅行をしました。大阪、京都、奈良へのバス旅行も日本でのいい思い出です。次は沖縄に行ってみたいです。旅行が好きな方がいたら、いろいろお話してみたいです。

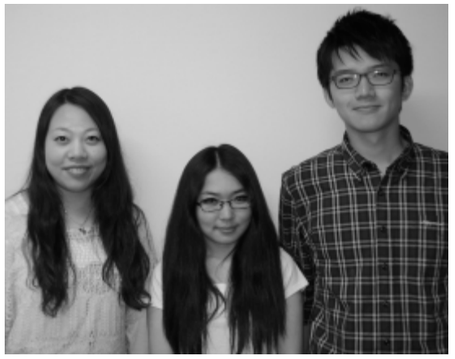
### ジョ・イシュンさん（台湾）

医療福祉・マネジメント学科研究生

台湾新竹市にある元培科技大学を一年間休学して、日本の医療福祉について学んでいます。元培科技大学は本学と交流協定を結んでいる大学です。本学学生が海外で研修を行う「海外保健福祉事情」の受け入れ校でもあります。

帰国後は元培科技大学に復学します。海外研修などで皆さんとお目にかかるのを楽しみにしています。

●歓迎会の様子



●左からライ・ムさん、アルド・サンドゥイさん、ジョ・イシュンさん




IUHW Graduate School Information

## 国際医療福祉大学大学院 2013年度 入学生募集中

**医療・福祉職として活躍中の卒業生のみなさん、大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか（本学卒業生は入学金が免除になります）**

**「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長**

**①キャンパス**　大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡天神、大川に6つのキャンパス、熊本にサテライトキャンパスを開設。

**②カリキュラム**　多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行なっています。

**③同時双方向遠隔授業**　複数のキャンパスで授業をリアルタイムで受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションも可能です。

TOPICS　**文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に基づく新コースを平成25年4月開講**

文部科学省が平成24年度から実施する「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に慶應義塾大学を中心に本学を含めた10大学が参画する「高度がん医療開発を先導する専門家の養成プログラム」が採択されました。
本学「がん先端医療に対する多職種連携重点コース」（博士課程、平成25年4月開講）では、異なる専門領域の学生が共にがん先端医療の実際を学び、それぞれの専門分野での治療計画の策定を協同して行うことができる専門医療職の養成をめざします。
ご関心のある方は、ＨＰをご覧ください。**http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/ganpro/index.html**

**大学院入試に関するお問い合せは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）**

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ

医療福祉eチャンネル http://www.ch774.com　好評配信中

主な配信番組

**●医療・健康**
ボイス～医療の扉をノックする～、脳科学と再生医療・遺伝子治療の最前線、エビデンスと物語の出会い～医療福祉の新しい潮流と発展～

**●介護・福祉**
役に立つ福祉用具の今日・明日・未来、床ずれの防止とケア～基礎から用具まで～、地域包括ケアの理念と現実的展開の方向性

**●資格試験対策・受験講座**
ケアマネジャー受験講座 ※プレ講座無料配信

**●病院・施設実務**
自立支援ケアマネジメント・自立支援介護、看護生涯学習講座、ケアマネジメント・認知症ケア・介護予防のための講座

**●リハビリテーションアワー**
第46回日本理学療法士協会全国学術研修大会(山梨)、2011作業療法フォーラム、作業療法士現職者共通研修

**●厚生労働省課長会議**
厚生労働省介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議(2月23日開催)　※無料配信
厚生労働省障害保健福祉主管課長会議(2月20日開催)　※無料配信

●エビデンスと物語の出会い

●ケアマネジャー受験講座

●ダブル改定対応のポイント

お問い合わせは　フリーダイヤル　0120-870-774　医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00）
Eメール　info@iryoufukushi.com　〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト OPEN!　「国際医療福祉大学VODライブラリー」http://www.ch774.com/student.php

主な配信番組　**●大学授業・副教材**
文学、演劇論、死生学概論、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、健康科学論、リスクマネジメント論、トップクラス講義、関連職種連携論、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学I、等



**広報誌 IUHW 90 号**

**発行：学校法人 国際医療福祉大学**

〔大田原キャンパス〕広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1　☎0287-24-3000
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25　☎0465-21-6500
〔福岡天神キャンパス〕
福岡県福岡市中央区長浜1-3-1　☎092-739-4321
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1　☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室　☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン

医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。
国際医療福祉大学
http://www.iuhw.ac.jp/


ⓒ国際医療福祉大学2012　Printed in Japan　禁無断転載・複写

# 新入生に聞く！ とっておき ひとり暮らしの楽々テクニック

この人が、と思う人が意外に生活上手だったりするもので、
今年の新入生の中にももうすっかりひとり暮らしに馴染んでいる人もいるはず。
そこで、新入生の初投稿のチャンスも兼ねて、
聞いてためになる「生活テクニック」を紹介してもらいます。

## とにかく楽しもう！ひとり暮らしは発見の連続。

理学療法学科1年
**野口 亮さん**
新潟県立佐渡高校出身

今日の昼食は休日に作ったカレーを解凍。それと、家から送ってもらった梅干しと佃煮は元気のもとです。後ろは甲子園出場記念のユニフォーム。これもひとり暮らしの味方。

私が思うひとり暮らしのコツは、ひとり暮らしを「**楽しむ**」ことです。ひとり暮らしは自由で気ままで楽しいもの、しかし、時に不安や寂しさ、心細さや退屈を感じることもあります。そんな時は、「楽しむ」ことが大事だと思います。「今日は昨日より安い材料でおいしくごはんが作れた」「掃除をしたら部屋が見違えるほどキレイになった」など、ちょっとしたことに喜びを感じて、それを積み重ねていけば、楽しいひとり暮らしができると思います。

## 友だちをたくさん作って情報を共有！

理学療法学科1年
**吉川 善さん**
高知県・土佐高校出身

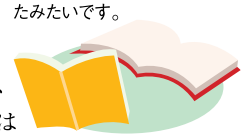
右は同じ棟に住む関健吾さん（同学科1年）。すぐに呼べる友だちがいれば、いざという時も安心、この時もすぐに駆けつけてくれました。

僕が思うひとり暮らしの知恵は**友だちをたくさん作ること**です。大学のこと、家事のこと、これから住む場所のことなど県外から来た人はひとり暮らしに何かと不安が多いものです。そんな時友だちがいれば、料理のレパートリーや節約術、大学の有用な情報を教えてもらったりすることができます。ひとり暮らしを有意義に過ごすためには情報の共有が必要です。そのために友だちをたくさん作ってひとり暮らしをエンジョイしてください。

## いつでも友だちを呼べる部屋にしています！

医療福祉・
マネジメント学科1年
**釜井 美香さん**
栃木県立宇都宮中央
女子高校出身

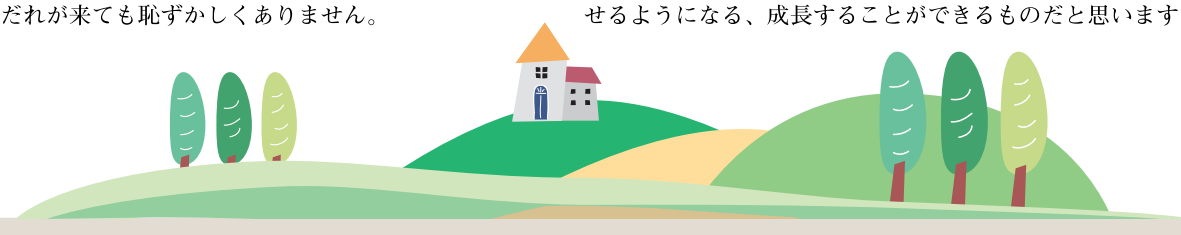
右が釜井美香さん。試験が終わった日の夕方に大垣晴香さん（同学科1年）とおさらい。もう見たくない（思い出したくない）ページもあったみたいです。



ひとり暮らしで一番気になっていたことは、防犯と整理整頓でした。もちろん戸締りには気を使っていますが、**一番心強いのは友だちがいること**です。いつでも行き来できる友だちにはとても助けられています。何かあったときは連絡を取り合うことができるだけでなく、勉強や自炊でも楽しく教え合うことができます。また、友だちが来るという意識がいつでも部屋をきれいにする気にさせてくれます。私の部屋は、だれが来ても恥ずかしくありません。

## まずはやってみる！小さな達成感から成長を実感。

医療福祉・
マネジメント学科1年
**立石みゆいさん**
埼玉県・浦和明の星
女子高校出身

右から2人目が立石さん。友だちは左から中島千晶さん、渡部知登世さん、矢野沙織さん（いずれも同学科1年）。今夜は麻婆丼、チキンソテー、トマトと豆腐のサラダ。

私が思うひとり暮らしのコツは「やりたくないと思う前に行動する」ことです。ひとり暮らしには寂しさや不安に思う気持ちが付き物です。そのような気持ちがある中で、自炊や掃除、洗濯などをするのはとてもつらく、大変なことです。しかし、家事をしっかりこなすと**ちょっとした達成感**を味わうことができます。そして、だんだん効率がよくなっていくことに喜びを感じます。ひとり暮らしは様々なことを自分自身でこなせるようになる、成長することができるものだと思います。